

●市は2月13日、19年度予算案として一般会計233億円、前年比2.3%増2400万円を計上した。水谷市長は「財政健全化と地域活性化を同時に進め、バランス感覚を重視した攻めの予算案と下した。重点施策として、①子育て環境の充実化、②インフラ施設および公共施設の老朽化対策、③防災対策の推進、④地域医療の充実、⑤鉄道利用の促進などを挙げている。

●市は3月の人事異動で「庁舎整備推進室」を新設。推進室長には後藤利博観光商工部長が選ばれた。次長には岩永雅浩企画総務部長ら2人が就任。

●市は19年度の公共地価を発表したが、全用途平均は、92年以降、連続の下落。うち住宅地が平方メートルあたり1万4千円で前年比100%の下落。平均変動率で前年に比べ0.1ポイントの下落にとどまった。うち住宅地の最高値は駒場南6-24の1万9千円で前年と変わらず。一方商業地では駒場南7-180の3万7500円で前年比1.3%下げ。総体的に下落傾向にあるのが気がかり。

●8月1日から商業捕鯨の解禁に伴い下道水産の捕鯨船「正和丸」は3日夕、羅臼沖で身長10.2mの大型ツチクジラを捕獲。同船はこのクジラを即刻網走港に曳航、下道水産の処理場で解体された。このツチクジラは体長10mを超える大型のオスで、体重は約13tonもあり、同社の下道吉一社長は「私が今まで見た中では一番大物」と驚いていた。解体にあたってはベテランの作業員が「この部分から刃物を入れると、ちょうつがいがある」など若手の作業員に丁寧に説明し、後継者たちへの技術向上に努めた。

●7月下旬から続いた酷暑は8月上旬にいったん収

まったが、同月24日には本年最高の30.8℃を記録、益明けまで平年並みの暑さが続いた。網走市内の「酷暑計」とされる市役所駐車場のアスファルトは7月下旬以来の高温で柔らかくなり、タイヤの跡が随所に残る状態。

●市内各中学の中学生4人が8月7日から3泊4日の日程で友好都市の沖縄県糸満市を訪問、平和記念公園、ひめゆりの塔などの戦跡、沖縄戦で亡くなった本道出身者の慰霊碑、「北雲碑」などを訪れるとともに、糸満市民から沖縄戦の体験談を聞いた。

●観光シーズンを迎えて、道内124カ所の道の駅を巡る「スタンプラリー2019」を展開、「流水街道あばしり」にも多数の観光客が押し寄せた。21年3月末までに道内60カ所の「ファイターズコーポ道の駅」のスタンプを集めると、日本ハム所属選手の直筆サイン入りレプリカなどが抽選で当たる。

●網走などを選挙地盤とする佐藤伸弥道議は、道議会の人口減少特別委員長に就任。持続可能な地域づくりに立ちあがる人口問題を中心に「州制特区」や広域連携、市町村などへの権限の移譲など、

地方のあり方を検討する。「本道の人口減少は全国平均より急激に進み、2040年には現在よりも15万も少なくなると推察され、地域のあり方を総合的に検討した」と、道が5年毎に行っている「道創生総合戦略」の見直しなどを進める。

●旧網走高校の解体作業は18年度の完全撤去を目指してほぼ完了。同校は戦後間もなくの1922年に故千葉七郎氏が創設、故千葉七郎氏が網走技芸専門学校として創設、女子教育の充実、化に貢献した。以後08年までに道立網走向陽高との統廃合により最後の卒業生を送り出すまでに東才ホーツク地域の女子教育に貢献してきた。

●道東地区を代表する外航クルーズ船の寄港地として存在感を発揮する網走港に日本最大の豪華客船「飛鳥II」が寄港。同船は全長241m、全幅29.6m、総トン数は50142トン（郵船クルーズ）で、乗組員数は470人で、乗客872人を乗せることが出来る。網走への寄港は2回目。午前8時に入港、午後5時に出港する。

●市は18年度の網走、西網走漁協の漁獲量の取扱いをまとめたが、網走漁協は6年ぶりに秋サケの漁獲量日本一に輝くなど、121億円を水揚げ、04年以降15年連続で100億円の大台を突破。一方の西網走漁協はホタテ、稚貝、シジミなどを堅調にして、史上最高の19億1321万円の実績を上げた。網走漁協は着実に漁獲を伸ばし前年比27%増の4万5613tを水揚げした。その背景として秋サケの豊漁が著しく、前年比54%増の8150tの水揚げを記録、日本一の栄光に輝いた。ホタテはここ数年間にわたって漁獲量が減少していたが、ここにきて回復に向かっている。

事務局より

●昨年の総会・懇親会の参加者は130名余り。網走市からは名誉会長水谷洋一市長、工藤英治市議会議長、渡部眞美副議長はじめ、市商工会議所北村謙二会長・市職員が多数参加されました。特に「元気で網走観光PR隊」職・絆纏の一行は20名近くのPR隊で代々木・銀座でのPRの後、会場に駆けつけ活動状況を紹介。

●参加賞はオホーツク産帆立の貝柱・網走産シジミ・いくらの醤油漬けのうち一つ。どれも大好評でした。

●ニュースのまとめに当たっては「網走タイムズ」を参考にしました。